

基礎の納まり

〔告示第1347号〕

○布基礎の取合い（平屋の場合）

※規準値または参考値

※240以上とし、かつ、凍結深度以上とする。若しくは、凍結を防止するための有効な措置を講じる。

○べた基礎の取合い（シングル配筋）

※規準値または参考値

根入れ深さ ※240以上とし、かつ、凍結深度以上とする。若しくは、凍結を防止するための有効な措置を講じる。

基礎の納まり

〔告示第1347号〕

○布基礎の取合い（2階建ての場合）

※規準値または参考値

※240以上とし、かつ、凍結深度以上とする。若しくは、凍結を防止するための有効な措置を講じる。

○べた基礎の取合い（ダブル配筋）

※規準値または参考値

根入れ深さ ※240以上とし、かつ、凍結深度以上とする。若しくは、凍結を防止するための有効な措置を講じる。

床組の納まり

〔告示第1654号〕

○根太あり・転ばし取合い

水平構面の仕様		品確法床倍率
○構造用合板	12mm以上 N50@150mm、根太@340mm以下	1.0
○構造用合板	12mm以上 N50@150mm、根太@500mm以下	0.7
○幅180mm板材	12mm以上 N50@150mm、根太@340mm以下	0.3
○幅180mm板材	12mm以上 N50@150mm、根太@500mm以下	0.2

○根太あり・根太高さ全て落とし込みの取合い

水平構面の仕様		品確法床倍率
○構造用合板	12mm以上 N50@150mm、根太@340mm以下	2.0
○構造用合板	12mm以上 N50@150mm、根太@500mm以下	1.4
○幅180mm板材	12mm以上 N50@150mm、根太@340mm以下	0.39
○幅180mm板材	12mm以上 N50@150mm、根太@500mm以下	0.26

○根太あり・根太高さの1/2以上落とし込みの取合い

○床梁に落とし込む方法

○際根太で固定する方法

○受材で固定する方法

水平構面の仕様		品確法床倍率
○構造用合板	12mm以上 N50@150mm、根太@340mm以下	1.6
○構造用合板	12mm以上 N50@150mm、根太@500mm以下	1.12
○幅180mm板材	12mm以上 N50@150mm、根太@340mm以下	0.36
○幅180mm板材	12mm以上 N50@150mm、根太@500mm以下	0.24

○木製火打の取合い

○火打金物（Zマーク）の取合い

床組の納まり

〔告示第1654号〕

○根太なし・直張り・川の字釘打ち・品確法床倍率1.2の取合い

○根太なし・直張り・四周釘打ち・品確法床倍率3.0の取合い

屋根の納まり

〔告示第1654号〕

○勾配30°以下の取合い

水平構面の仕様		品確法床倍率
○構造用合板	9mm以上 N50@150mm、垂木@500mm以下	0.7
○幅180mm板材	9mm以上 N50@150mm、垂木@500mm以下	0.2

○勾配45°以下の取合い

水平構面の仕様		品確法床倍率
○構造用合板	9mm以上 N50@150mm、垂木@500mm以下	0.5
○幅180mm板材	9mm以上 N50@150mm、垂木@500mm以下	0.1

大壁

〔告示第1100号〕

○構造用面材との取合い

構造用面材の種類	厚み	釘の種類	外周釘間隔P1	内部釘間隔P2	壁倍率	特記事項
○構造用合板		N50	150mm	150mm	2.5	
○パーティクルボード		N50	150mm	150mm	2.5	
○構造用パネル		N50	150mm	150mm	2.5	
○ハードボード		N50	150mm	150mm	2.0	
○硬質木片セメント板		N50	150mm	150mm	2.0	
○構造用セメントボードA種		GNF40またはGNC40	150mm	150mm	1.7	
○構造用セメントボードB種		GNF40またはGNC40	150mm	150mm	1.2	
○ラスシート		N38	150mm	150mm	1.0	
○シーシングボード		N40	100mm	200mm	1.0	
○石膏ボード		GNF40またはGNC40	150mm	150mm	0.9	

注）パーティクルボード・構造用パネル・ハードボードの実合せの間隔は、間差以外の部分で2～3mmあける

○木ずりの取合い

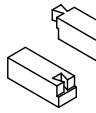
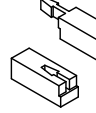
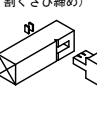
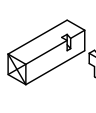
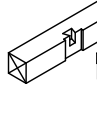
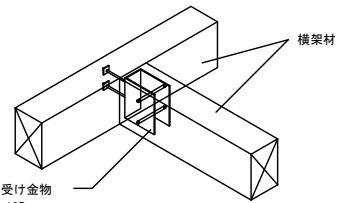
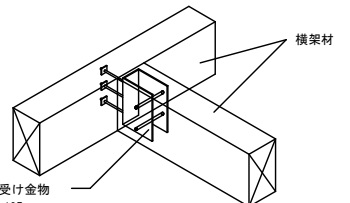
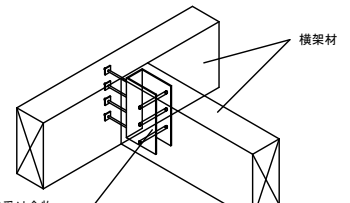
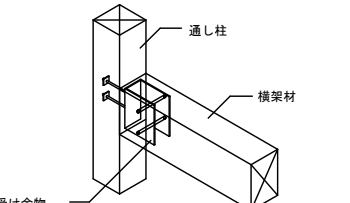
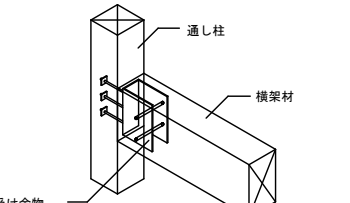
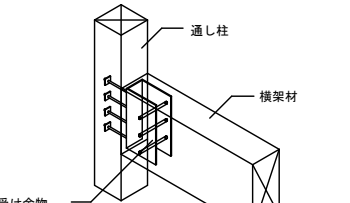
種類	断面寸法	釘打ち	特記事項
○木ずり		柱・間柱へそれぞれN50、2本平打ち	

注）継手は、柱、間柱心で突き付け、5枚以下毎に乱離ぎとする

○構造用面材の隅部の取合い

○構造用面材のT字部の取合い

筋かい端部及び柱端部と接合金物との納まり					柱端部と接合金物との納まり						
[建築基準法施行令第46条第4項 告示第1460号 告示第1654号]					[告示第1460号 告示第1654号]						
筋かい端部の取合い		柱端部の取合い			柱頭	(は) かど金物 CP-T (品確法接合倍率：1.0)	(は) 山形プレート VP (品確法接合倍率：1.0)	(は) 山形プレート VP2 (品確法接合倍率：1.0)	(に) 羽子板ボルト SB・F2(E)、羽子板パイプ SP・E2 (品確法接合倍率：1.4)		
○ (口) 15×90mm以上の筋かい (壁倍率1.0、たすき掛けのとき2.0)		柱頭	(い) 短ほぞ差し (品確法接合倍率：0.0)	(い) かすがい打ち (品確法接合倍率：0.0)		(い) 長ほぞ差し込み栓打ち (品確法接合倍率：0.7)	(い) かど金物 CP-L (品確法接合倍率：0.7)				
○ (ハ) 30×90mm以上の筋かい (壁倍率1.5、たすき掛けのとき3.0)			(い) 短ほぞ差し 柱	かすがい打ち		長ほぞ 込み栓打ち	かど金物 CP-L 10-太め釘ZN65			羽子板ボルト SB・F2 1-六角ボルトM12 2-六角ナットM12 2-角座金W4.5×40 ※羽子板ボルト SB・E2 でも可	羽子板パイプ SP・E2 2-六角ボルトM12 2-六角ナットM12 2-角座金W4.5×40
○ (ニ) 45×90mm以上の筋かい (壁倍率2.0、たすき掛けのとき4.0)			短ほぞ差し 上階柱 短ほぞ差し 下階柱	かすがい打ち		長ほぞ 込み栓打ち	かど金物 CP-L 10-太め釘ZN65			羽子板ボルト SB・F2 1-六角ボルトM12 2-六角ナットM12 2-角座金W4.5×40 羽子板パイプ SP・E2 3-六角ボルトM12 3-六角ナットM12 2-角座金W4.5×40	羽子板ボルト SB・F2 1-六角ボルトM12 2-六角ナットM12 2-角座金W4.5×40 羽子板パイプ SP・E2 1-六角ボルトM12 2-六角ナットM12 2-角座金W4.5×40
○ (ホ) 90×90mm以上の筋かい (壁倍率3.0、たすき掛けのとき5.0)		柱脚	短ほぞ差し 柱 土台 基礎	かすがい打ち	長ほぞ 込み栓打ち	かど金物 CP-L 10-太め釘ZN65		山形プレート VP2 12-太め釘ZN65	座掘り		
柱端部と接合金物との納まり					柱端部と接合金物との納まり						
[告示第1460号 告示第1654号]					[告示第1460号 告示第1654号]						
(に) 短ざく金物 S (スクリュー釘なし) (品確法接合倍率：1.4)	(ほ) 羽子板ボルト SB・F(E)、羽子板パイプ SP・E (品確法接合倍率：1.6)	(ほ) 短ざく金物 S(スクリュー釘あり) (品確法接合倍率：1.6)	(へ) 引き寄せ金物 S-HD10 (品確法接合倍率：1.8)	(と) 引き寄せ金物 S-HD15 (品確法接合倍率：2.8)	柱頭	座金付きボルト M16W 引き寄せ金物 S-HD10 1-座金付きボルトM16W 1-六角ナットM16 2-六角ボルトM12 2-六角ナットM12 2-角座金W4.5×40	座金付きボルト M16W 引き寄せ金物 S-HD15 1-座金付きボルトM16W 1-六角ナットM16 2-六角ボルトM12 3-六角ナットM12 3-角座金W4.5×40	座金付きボルト M16W 引き寄せ金物 S-HD20 1-座金付きボルトM16W 1-六角ナットM16 2-六角ボルトM12 4-六角ナットM12 4-角座金W4.5×40	座金付きボルト M16W 引き寄せ金物 S-HD25 1-座金付きボルトM16W 1-六角ナットM16 2-六角ボルトM12 5-六角ナットM12 5-角座金W4.5×40	座金付きボルト M16W 引き寄せ金物 S-HD15×2 2-座金付きボルトM16W 2-六角ナットM16 6-六角ボルトM12 6-六角ナットM12 6-角座金W4.5×40	引き寄せ金物 HD-B15 1-アンカーボルトM16 1-六角ナットM16 1-角座金W6.0×54 3-六角ボルトM12 3-六角ナットM12 3-角座金W4.5×40 アンカーボルトM16
上下階	羽子板ボルト SB・F 1-六角ボルトM12 2-六角ナットM12 2-角座金W4.5×40 1-スクリュー釘ZS50	羽子板パイプ SP・E 2-六角ボルトM12 2-六角ナットM12 1-角座金W4.5×40 1-スクリュー釘ZS50	短ざく金物 S 2-六角ボルトM12 2-六角ナットM12 3-スクリュー釘ZS50	引き寄せ金物 S-HD10 1-座金付きボルトM16W 1-六角ナットM16 2-六角ボルトM12 4-角座金W4.5×40 六角ボルトM16 または両ねじボルトM16		引き寄せ金物 S-HD15 1-六角ボルトM16 1-六角ナットM16 2-六角ボルトM12 3-角座金W4.5×40 六角ボルトM16 または両ねじボルトM16	引き寄せ金物 S-HD20 1-座金付きボルトM16W 1-六角ナットM16 2-六角ボルトM12 4-角座金W4.5×40 六角ボルトM16 または両ねじボルトM16	引き寄せ金物 S-HD25 1-六角ボルトM16 1-六角ナットM16 2-六角ボルトM12 5-角座金W4.5×40 六角ボルトM16 または両ねじボルトM16	引き寄せ金物 S-HD15×2 2-六角ボルトM16 2-六角ナットM16 2-六角ボルトM12 6-六角ナットM12 6-角座金W4.5×40 六角ボルトM16 または両ねじボルトM16	引き寄せ金物 HD-N15 1-アンカーボルトM16 1-六角ナットM16 1-角座金W6.0×54 16-太め釘ZN90 アンカーボルトM16	
	柱脚	羽子板ボルト SP・F 2-六角ボルトM12 2-六角ナットM12 1-スクリュー釘ZS50 座掘り		引き寄せ金物 S-HD10 1-座金付きボルトM16W 1-六角ナットM16 2-六角ボルトM12 4-角座金W4.5×40 座金付きボルトM16W		引き寄せ金物 S-HD15 1-アンカーボルトM16 1-六角ナットM16 2-六角ボルトM12 3-角座金W4.5×40 アンカーボルトM16	引き寄せ金物 S-HD20 1-アンカーボルトM16 1-六角ナットM16 2-六角ボルトM12 4-角座金W4.5×40 アンカーボルトM16	引き寄せ金物 S-HD25 1-アンカーボルトM16 1-六角ナットM16 2-六角ボルトM12 5-角座金W4.5×40 アンカーボルトM16	引き寄せ金物 S-HD15×2 2-アンカーボルトM16 2-六角ナットM16 2-六角ボルトM12 6-六角ナットM12 6-角座金W4.5×40 アンカーボルトM16	引き寄せ金物 S-HD15 1-アンカーボルトM16 1-六角ナットM16 3-ラグスクリューLS12 アンカーボルトM16	

通し柱と横架材及びその他の部位と接合金物との取合い					横架材及び通し柱と接合金物との収まり（品確法）				
[告示第1460号 告示第1654号]					[告示第1654号]				
通し柱と横架材の取合い（品確法）	引き寄せ金物と各部の取合い			筋かいたすき掛け部分の取合い	横架材相互の取合い				通し柱と横架材の取合い
(T2) かたぎ大入れ短ぼぞ差し ＋短ざく金物 S	引き寄せ金物 S-HD15 筋かい 筋かいプレート BP-2 土台	真壁の受材タイプと引き寄せ金物の納まり 受材 引き寄せ金物 S-HD15 構造用面材 受材 土台	格子壁（通常タイプ）と引き寄せ金物の納まり 格子壁 柱 引き寄せ金物 HD-N15 土台	筋かい断面30×90mm、45×90mmの納まり N75釘 両面打ち	(る) 腰掛けあり＋羽子板ボルト （品確法接合部倍率：1.9） 腰掛けあり 羽子板ボルト SB-E2 SB-F2	(る) 腰掛けあり＋短ざく金物 （品確法接合部倍率：1.9） 腰掛けあり 短ざく金物 S	(を) 腰掛けあり＋羽子板ボルト×2 （品確法接合部倍率：3.0） 腰掛けあり 羽子板ボルト×2 SB-E2 SB-F2	(を) 腰掛けあり＋短ざく金物×2 （品確法接合部倍率：1.9） 腰掛けあり 短ざく金物 S×2	(T1) かたぎ大入れ短ぼぞ差し ＋かね折り金物 通し柱 かね差 かね折り金物 かたぎ大入れ短ぼぞ差し
(T3) 引き寄せ金物 S-HD15	貫と引き寄せ金物の納まり 引き寄せ金物 S-HD15 貫 土台	土塗り壁と引き寄せ金物の納まり 土塗り壁 柱 引き寄せ金物 HD-N15 太め釘 ZN90	格子壁（後付けタイプ）と引き寄せ金物の納まり 格子壁 柱 引き寄せ金物 S-HD15 土台 ラグスクリュー LS12	筋かい断面90×90mmの収まり 六角ボルト M12 ひら金物 SM40 両面打ち ZN65 12本打ち かたぎ大入れ	(る) 大入れあり掛け＋羽子板ボルト （品確法接合部倍率：1.9） 大入れあり掛け 羽子板ボルト SB-E2 SB-F2	(る) 大入れあり掛け＋短ざく金物 （品確法接合部倍率：1.9） 大入れあり掛け 短ざく金物 S	(を) 大入れあり掛け＋羽子板ボルト×2 （品確法接合部倍率：3.0） 大入れあり掛け 羽子板ボルト×2 SB-E2 SB-F2	(を) 大入れあり掛け＋短ざく金物×2 （品確法接合部倍率：3.0） 大入れあり掛け 短ざく金物 S×2	(T1) かたぎ大入れ短ぼぞ差し ＋羽子板ボルト 通し柱 羽子板ボルト SB-E2 SB-F2 かね差 かたぎ大入れ短ぼぞ差し
横架材及び通し柱と接合金物との納まり（品確法）					継手及び仕口の納まり [建築基準法施行令第47条]				
横架材相互及び通し柱と横架材の取合い					横架材の継手		土台の隅の仕口	土台の仕口	柱と土台の仕口
梁受け金物 BH-135		梁受け金物 BH-195、BH-255			(腰掛けあり継ぎ)	(腰掛けかま継ぎ)	(大入れ小根ぼぞ差し 割くさび締め)	(片あり掛け)	(大入れあり掛け)
製材又は構造用集成材一般 （品確法接合倍率：2.3）	構造用集成材 （強度等級E105～F300以上） （品確法接合倍率：3.6）	製材又は構造用集成材一般 （品確法接合倍率：2.6）	構造用集成材 （強度等級E105～F300以上） （品確法接合倍率：4.8）						
		 			火打土台の仕口 (かたぎ大入れN90釘2本打ち) 土台 火打土台	胴差の仕口 (追掛大栓継ぎ) 胴差	梁の仕口 (大入れあり掛け) 大梁 床梁 羽子板ボルト	通し柱と胴差の仕口 (かたぎ大入れ短ぼぞ差し) 通し柱 胴差 短ざく金物 かね折り金物	通し柱と床梁の仕口 通し柱 床梁 短ざく金物 羽子板ボルト
		 			根太の継手 (突付け釘打ち) 根太 大引き	大引と床束の仕口 (突付けひら金物又はかすがい打ち) 大引き かすがい又はひら金物打ち 床束	根がらみと床束の取合い 大引き 根がらみ 床束	床梁の継手 (台持ち継ぎ) 床梁 六角ボルト	垂木と横架材の仕口 (垂木当たり欠き乗せ継ぎ) 垂木 横架材
					火打梁の取合い (木製火打梁) 火打梁 胴差 六角ボルト 梁 750mm前後	大引と床束の仕口 (鋼製火打梁) 火打金物 胴差 六角ボルト 平釘 梁 700mm	小梁の継手 (台持ち継ぎ) 小梁 桁	小梁と軒桁との仕口及び取合い (大入れあり掛け) 軒桁 小梁 柱 羽子板ボルト	小梁と軒桁との仕口及び取合い (かぶとあり) 軒桁 小梁 柱 羽子板ボルト
									桁行筋かい・振れ止め 棟木 小屋束 小屋梁 桁行筋かい 振れ止め
									軒桁 小屋束 小屋梁 散桁 羽子板ボルト

1. 工 事 概 要

本工法は、専用施工機に装備された、側面に施工投入口を備えるケーシングにより鉛直に穴を掘削し、砕石を締固めながら充填し柱状砕石補強体を造成するものであり、この柱状砕石補強体と原地盤の複合地盤により、鉛直支持力の増加及び圧密沈下の抑制を図る地盤改良工法である。財団法人日本建築総合試験所において建築技術性能証明（GBRC第09-31号改5）を受けている。

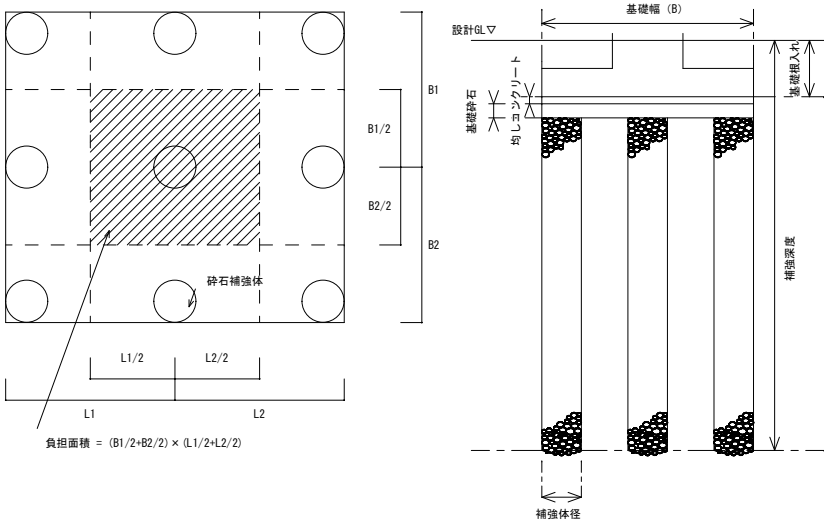
2. 特 記 仕 様

- ① 削孔径：Φ420mm(排土型)、Φ320mm(無排土型)
- ② 有効径：Φ420mm(設計径)
- ③ 掘削深度：L＝ 5.0m 以下
- ④ 補強体配置ピッチ：0.5m ～ 2.3m
- ⑤ 使用砕石：単粒度砕石S40(3号)、S30(4号)、S20(5号)（JIS A 5001）
単粒度砕石S4020（JIS A 5005）
- ⑥ 複合地盤の強度は設計検討書による。
- ⑦ 補強体の本数、打設位置は配置図による。

3. 施 工 計 画

本工事に先立ち、施工計画書を提出する。
施工計画書は次の事項を明記する。
①工事内容(補強体径, 補強体長, 補強体本数) ②持込機械
③主要資材(材料, 予定数量) ④施工方法 ⑤施工管理 ⑥品質管理

4. 標 準 断 面 図



※基礎工事の際、基礎砕石を施工する前に柱状砕石補強体の転圧が十分であることを確認して下さい。

5. 施 工

- ① 本工法の施工は、エコジオ工法協会が認定した会員会社のみが行うことができる。
- ② 補強体頭部の高さは現状GLあわせとする。
- ③ 締固め層厚は10cmとし、締固めトルクは 3kN・m 以上とする。
- ④ 施工に対して異常が生じた場合は、ただちに監督員と協議し、その指示を受ける。
- ⑤ 工程：1)施工機位置決め、2)先端閉塞（キャッピング）、3)掘削
4)締固め

1) 施 工 機 位 置 決 め

所定位置に施工機をセットし、リーダー（ケーシング）の鉛直性を確認する。

2) 先 端 閉 塞 （ キ ャ ッ ピ ン グ ）

ケーシングを正転（時計回り）で40cm程貫入した後、20cm程度引き上げる。
（ケーシング内部の土砂を排出するための空間を設ける。）
ケーシング内に砕石を投入しながら、内部スクリューを逆転（反時計回り）させ先端スクリューの先端まで砕石を詰め込む。

3) 掘 削

正転（時計回り）で設計深度まで掘削する。
正転（時計回り）の状態 で設計深度より5～10cm引き上げる。
（砕石を排出するための空間を設ける。）

4) 締 め 固 め

EGドアを開け、ドアストッパーで固定する。
砕石を投入しながら逆転し、回転トルクが規定値に達したら（ブザー音が2回）、ケーシング10cm引き上げる（ブザー音が1回）。
この操作を補強体の頭部深度まで繰り返すことにより、補強体の築造が完了する。
締固め層厚は10cmとし、締固めトルクは3kN・m以上とする。

※補足

【柱状砕石補強体の頭部（地表面付近）において締固めトルクが規定値に達しない場合の措置】

柱状砕石補強体の頭部深度が地表面付近であり、砕石締固め工程において補強体周辺の地盤が外側へ押し出され、締固めトルクが規定値に到達しない場合の施工方法。
①掘削開始時および地表面付近の締固め時は、プレス円盤を地表面に押し付ける。
②上記の方法でも締固めトルクが規定値まで上昇しない場合は、補強体頭部へ先端スクリューを押し付ける。または柱状砕石補強体の頭部をプレー トランマーなどで十分転圧する。

【打ち止め規定】

施工中に掘削が困難となり、設計で定めた深度まで到達しない場合は、その深度から補強体を構築し、その補強体周辺に増し打ちを行うものとする。ただし、事前の地盤調査結果により掘削困難な深度周辺に堅固な支持層が確認されており、補強体長（基礎下から補強体先端まで）が1m以上確保できる場合において下記数値を満たすことを確認し、打ち止めとすることができるとする。

圧入圧＝15kN以上で回転数＝10回以上において、深度∠h＝1cm以内

6. 施 工 機 器

- ① 改良機本体は、施工時のデータを記録できる施工管理装置を有するものであり、エコジオ専用アタッチメントを装着したものとする。
- ② エコジオ専用アタッチメントの仕様を下記に記す。

項 目	内 容	詳 細
ケーシング	ケーシング外径	排土型 Φ400±10mm
		非排土型 Φ320±10mm
	長さ	3,000mm～6,000mm
先端スクリュー	外周部最大直径	排土型 Φ420±10mm
		非排土型 Φ320±10mm

7. 施 工 管 理

① 主 要 資 材

改良工事の使用する砕石は下表のいずれかとする。

項 目	名 称	粒 径（mm）	規 格
天然砕石	砕石 4 0 2 0	2 0 ～ 4 0	JIS A 5005
天然砕石	単粒度砕石S4 0	3 0 ～ 4 0	JIS A 5001
天然砕石	単粒度砕石S3 0	2 0 ～ 3 0	JIS A 5001
天然砕石	単粒度砕石S2 0	1 3 ～ 2 0	JIS A 5001

② 管 理 項 目 と 管 理 方 法

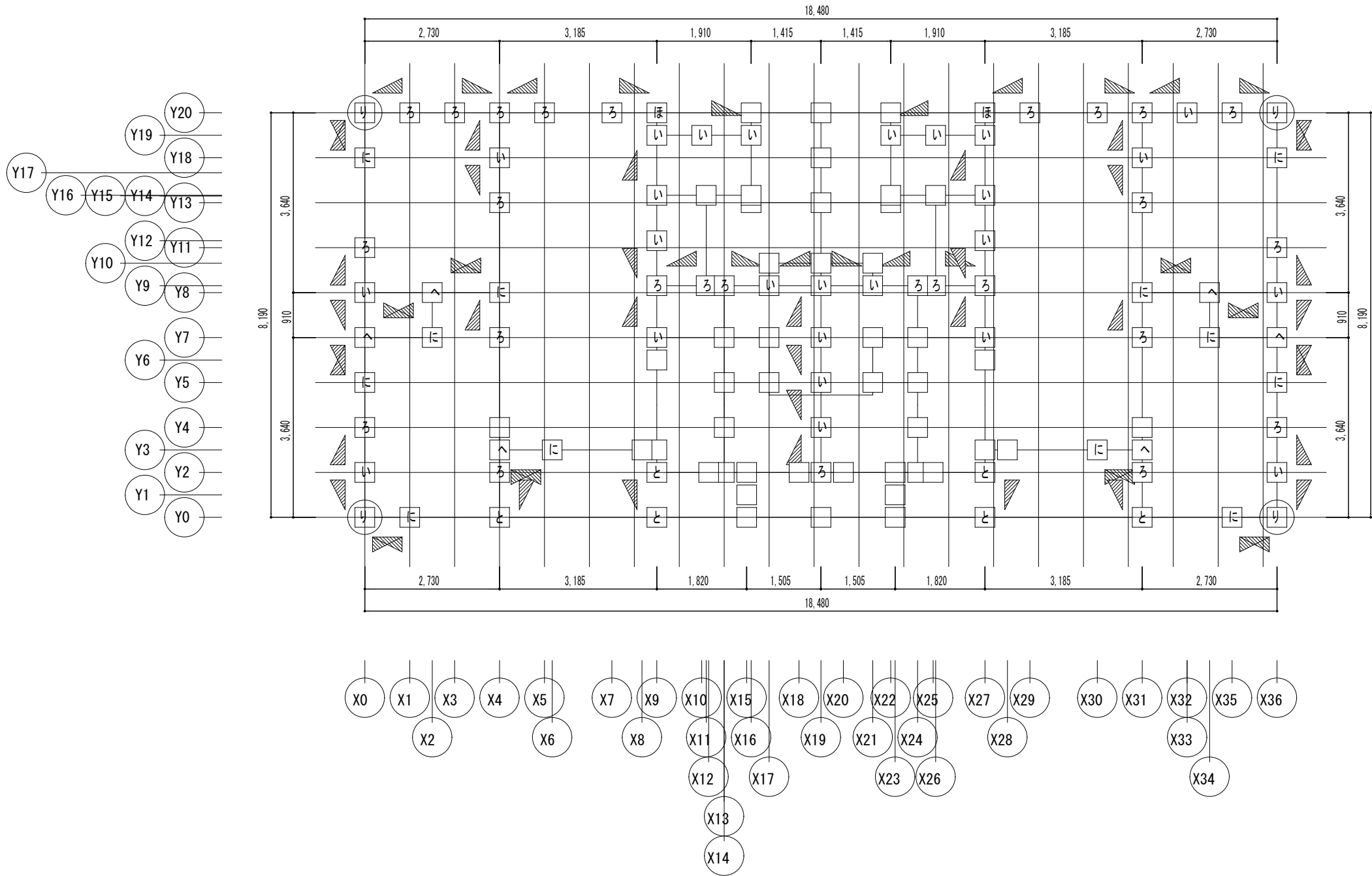
施工に関する管理項目及び管理基準等は下表の通りとする。

項 目	頻 度	基 準 ・ 規 格 値	備 考
施工深度	全本数	設計深度以上	施工管理装置【データ】
砕石使用量	全本数	計画投入量 -10%以上	施工管理装置【データ】
締固め	全本数 10cm毎の締固め時	3kN・m以上で 達成率90%以上	施工管理装置【データ】
補強体頭部直径	50本に1本	排土型：420mm以上 非排土型：320mm以上	補強体頭部にて実測【写真】
補強体芯ずれ	全本数	X, Y方向に対して 100mm以内	補強体芯にて実測【写真】

8. 施 工 報 告 書

工事完了後、次の項目について報告書をまとめて、監督員に速やかに提出する。

- ①補強体施工図及び施工番号 ②改良施工日(実施工程表) ③実績改良長
- ④砕石投入量及び搬入量 ⑤施工記録データ ⑥施工記録写真



凡例	
線種	仕様
	耐力壁
	準耐力壁

記号	開口の種類
(無)	全壁
戸	ドア
大	腰高(大)
中	腰高(中)
小	腰高(小)
掃	掃き出し窓
×	準耐力壁に算入しない壁

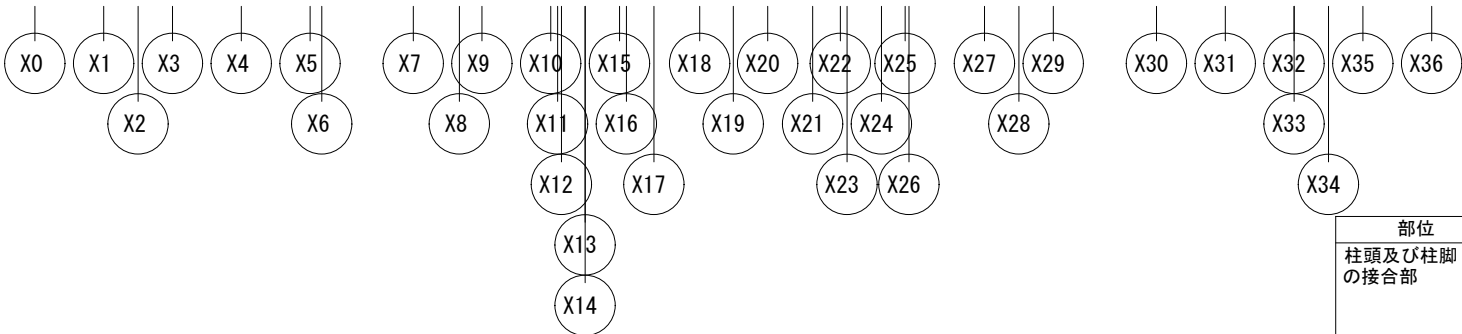
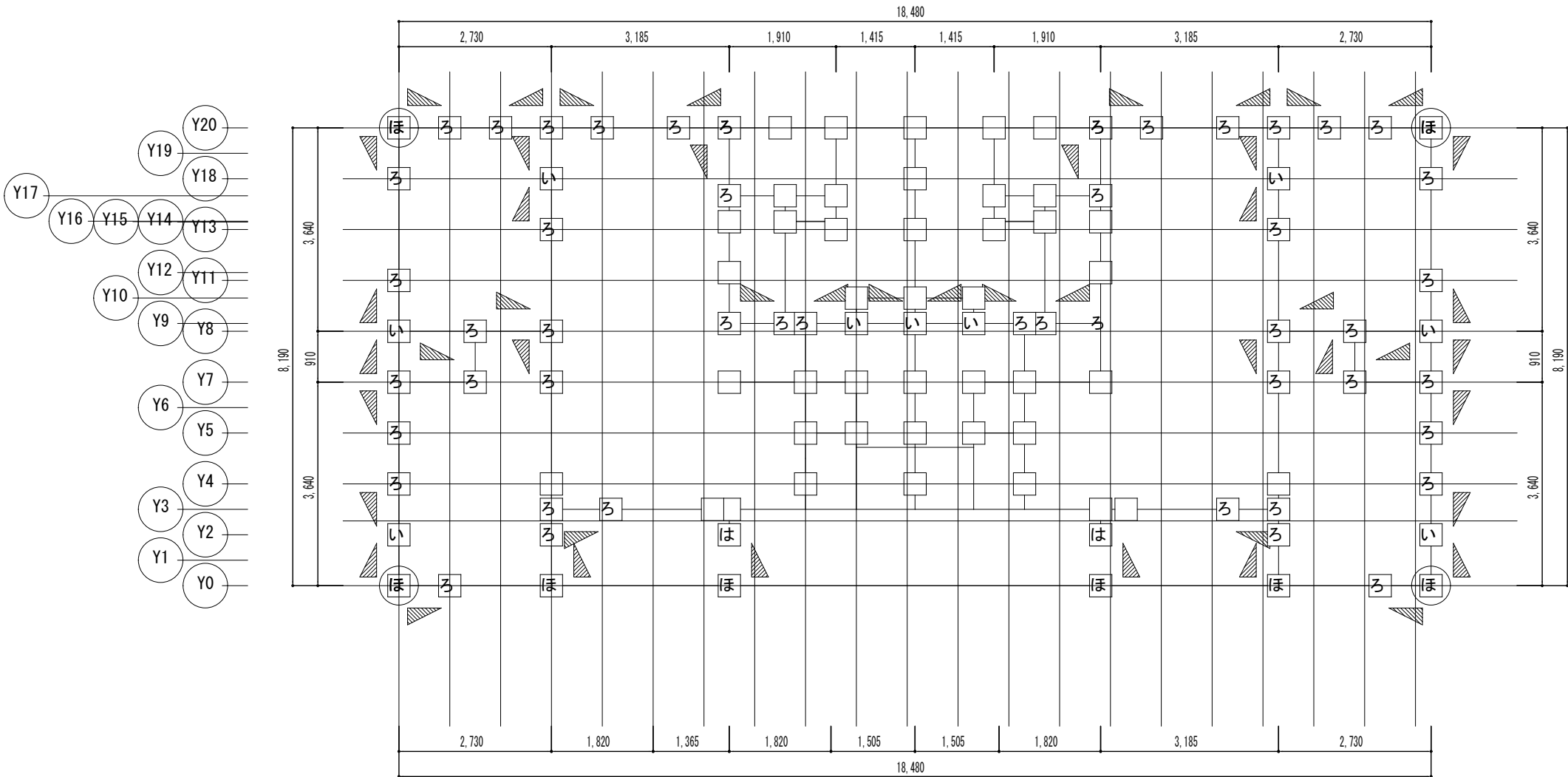
図面表記	仕様	接合部用壁倍率	
		上端	下端
	15×90の木材(一方向) φ9の鉄筋 (一方向)	1.0	
	15×90の木材 (たすき掛け) φ9の鉄筋 (たすき掛け)	2.0	
	30×90の木材(一方向)	2.0	1.0
	30×90の木材 (たすき掛け)	3.0	
	45×90の木材(一方向)	2.5	1.5
	45×90の木材 (たすき掛け)	4.0	
	90×90の木材(一方向)	5.0	1.0
	90×90の木材 (たすき掛け)	5.0	

※数値は、柱の片側のみに耐力壁（筋違のみ）が配置されたときの壁倍率に補正値を加えたものを示す。

柱頭 柱脚 柱頭 柱脚

部位	仕様	記号	N値	仕様名	倍率
柱頭及び柱脚の接合部	い	□	0.0以下	短ほぞ差し、又はかすがい打ち	0.0
	ろ	N	0.65以下	長ほぞ差し込み栓打ち、又はL字型かど金物	0.7
	は	V	1.0以下	山形プレート、又はT字型かど金物	1.0
	に	P	1.4以下	羽子板ﾎﾞﾙﾄ、又は短冊金物	1.4
	ほ	Ps	1.6以下	ｽｸﾘｭｰ釘ZS50＋羽子板ﾎﾞﾙﾄ、又はｽｸﾘｭｰ釘ZS50＋短冊金物	1.6
	へ	2	1.8以下	10kN用引き寄せ金物	1.8
	と	3	2.8以下	15kN用引き寄せ金物	2.8
	ち	4	3.7以下	20kN用引き寄せ金物	3.7
	り	5	4.7以下	25kN用引き寄せ金物	4.7
	ぬ	3D	5.6以下	30kN用引き寄せ金物	5.6
	※	※	5.6超	(該当する接合部金物なし)	-
胴差と通し柱	T1			かたぎ大入れ短ほぞ差し＋かね折り金物	-
	T2			かたぎ大入れ短ほぞ差し＋短冊	-
	T3			かたぎ大入れ短ほぞ差し＋15kN用引き寄せ金物	-
	※			横架材配置状況の検討	-

1階柱頭柱脚金物算定平面図



2階柱頭柱脚金物算定平面図

凡例	
線種	仕様
——	耐力壁
-----	準耐力壁

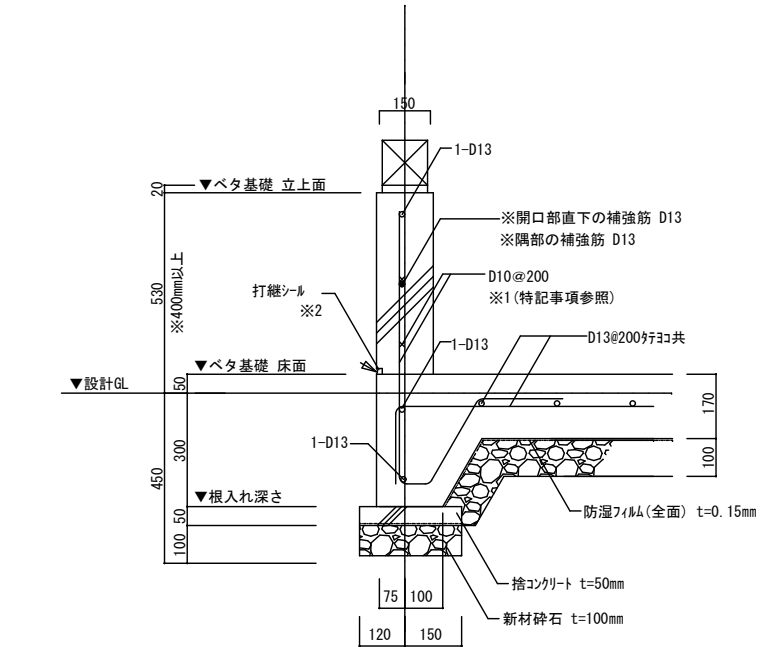
記号	開口の種類
(無)	全壁
戸	ドア
大	腰高(大)
中	腰高(中)
小	腰高(小)
掃	掃き出し窓
×	準耐力壁に算入しない壁

図面表記	仕様	接合部用壁倍率	
		上端	下端
	15×90の木材(一方向) φ9の鉄筋 (一方向)	1.0	
	15×90の木材 (たすき掛け) φ9の鉄筋 (たすき掛け)	2.0	
	30×90の木材(一方向)	2.0	1.0
	30×90の木材 (たすき掛け)	3.0	
	45×90の木材(一方向)	2.5	1.5
	45×90の木材 (たすき掛け)	4.0	
	90×90の木材(一方向)	5.0	1.0
	90×90の木材 (たすき掛け)	5.0	

※数値は、柱の片側のみに耐力壁（筋違のみ）が配置されたときの壁倍率に補正値を加えたものを示す。

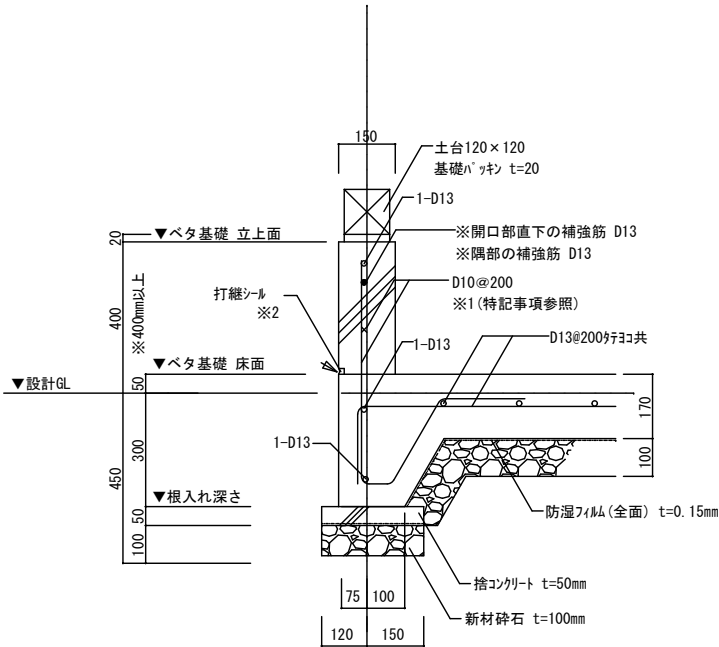
柱頭 柱脚 柱頭 柱脚

部位	仕様	記号	N値	仕様名	倍率
柱頭及び柱脚の接合部	い	□	0.0以下	短ほぞ差し、又はかすがい打ち	0.0
	ろ	N	0.65以下	長ほぞ差し込み栓打ち、又はL字型かど金物	0.7
	は	V	1.0以下	山形プレート、又はT字型かど金物	1.0
	に	P	1.4以下	羽子板ﾎﾞﾙﾄ、又は短冊金物	1.4
	ほ	Ps	1.6以下	ｽｸﾘｭｰ釘ZS50＋羽子板ﾎﾞﾙﾄ、又はｽｸﾘｭｰ釘ZS50＋短冊金物	1.6
	へ	2	1.8以下	10kN用引き寄せ金物	1.8
	と	3	2.8以下	15kN用引き寄せ金物	2.8
	ち	4	3.7以下	20kN用引き寄せ金物	3.7
	り	5	4.7以下	25kN用引き寄せ金物	4.7
	ぬ	3D	5.6以下	30kN用引き寄せ金物	5.6
	※	※	5.6超	(該当する接合部金物なし)	-
胴差と通し柱	T1			かたぎ大入れ短ほぞ差し＋かね折り金物	-
	T2			かたぎ大入れ短ほぞ差し＋短冊	-
	T3			かたぎ大入れ短ほぞ差し＋15kN用引き寄せ金物	-
	※			横架材配置状況の検討	-



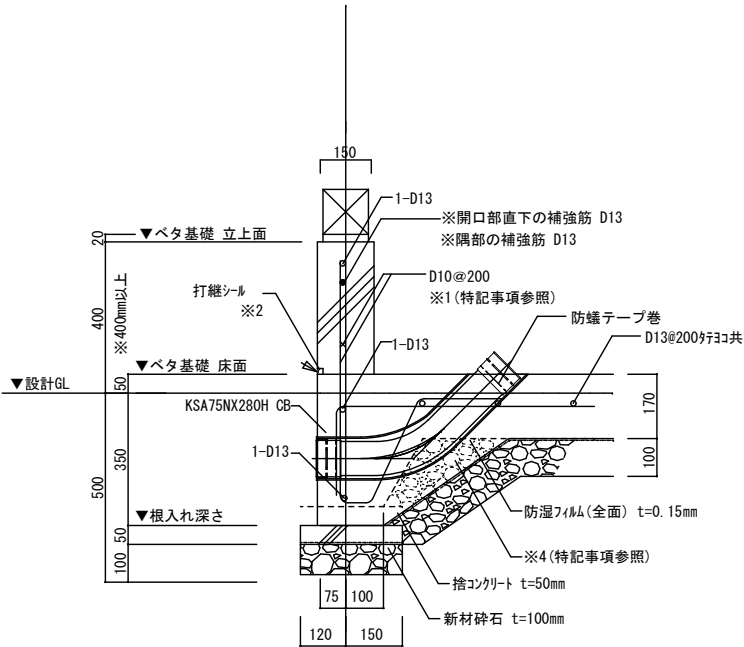
《W150 ベタ基礎 (H530) 詳細図 S=1/20》

- 特記事項 ※1 開口部等主筋の端部についてはD13とする
特記事項 ※2 打継目地底からかぶり厚さ60mm以上確保する



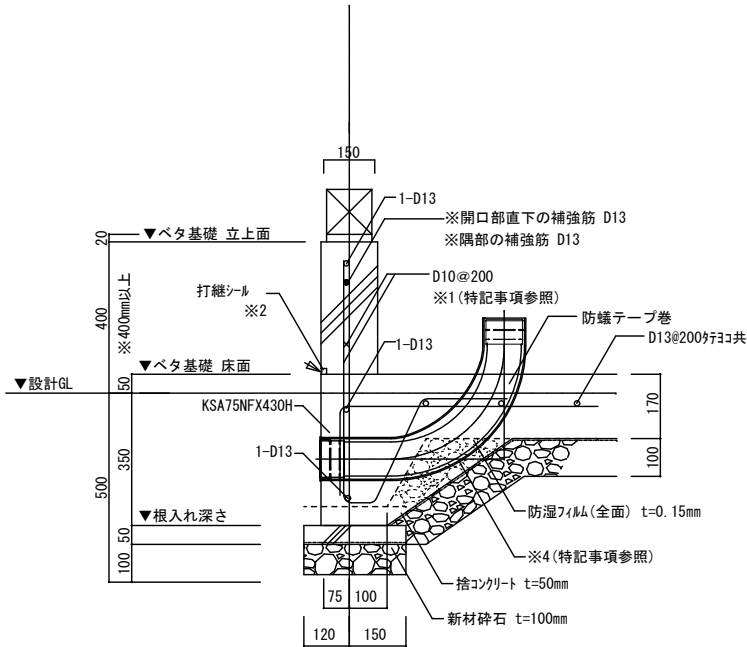
《W150 ベタ基礎 (H400) 詳細図 S=1/20》

- 特記事項 ※1 開口部等主筋の端部についてはD13とする
特記事項 ※2 打継目地底からかぶり厚さ60mm以上確保する



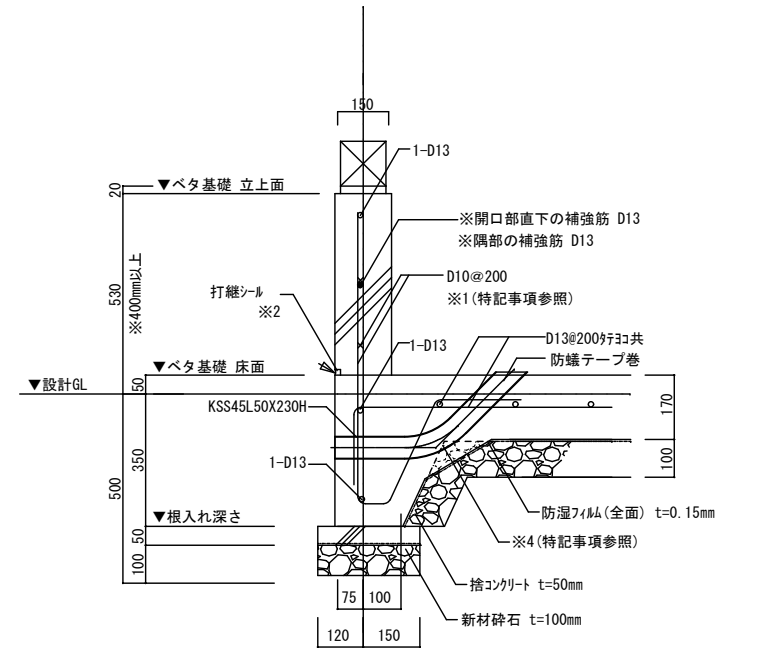
《W150 ベタ基礎 (H400) 深基礎 詳細図 S=1/20》
基礎貫通スリーブ (KSA75NX280H CB) 排水用参考詳細図

- 特記事項 ※1 開口部等主筋の端部についてはD13とする
特記事項 ※2 打継目地底からかぶり厚さ60mm以上確保する
特記事項 ※3 基礎貫通スリーブからかぶり厚さ40mm以上確保する
特記事項 ※4 基礎貫通スリーブかぶり厚さ確保のため一部碎石除去
特記事項 ※5 鉄筋切断時には適切な補強をする



《W150 ベタ基礎 (H400) 深基礎 詳細図 S=1/20》
基礎貫通スリーブ (KSA75NFX430H) 排水用参考詳細図

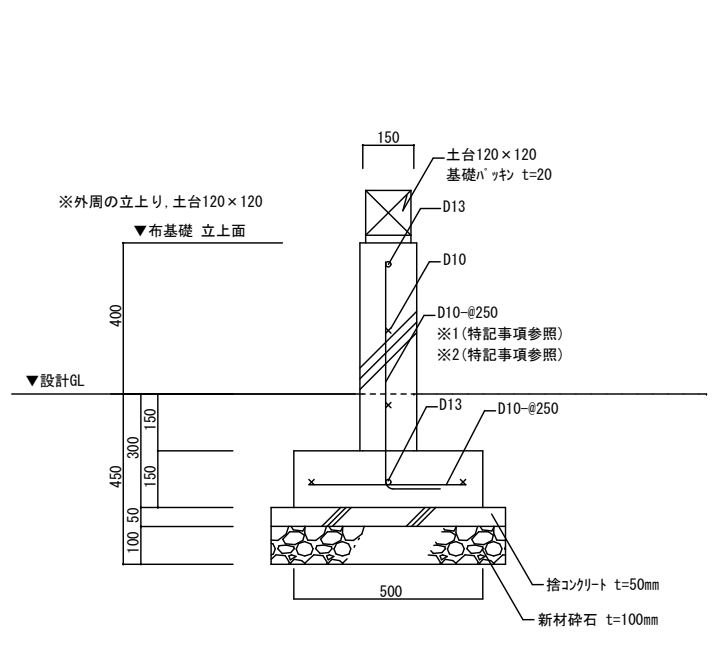
- 特記事項 ※1 開口部等主筋の端部についてはD13とする
特記事項 ※2 打継目地底からかぶり厚さ60mm以上確保する
特記事項 ※3 基礎貫通スリーブからかぶり厚さ40mm以上確保する
特記事項 ※4 基礎貫通スリーブかぶり厚さ確保のため一部碎石除去
特記事項 ※5 鉄筋切断時には適切な補強をする



《W150 ベタ基礎 (H400) 詳細図 S=1/20》

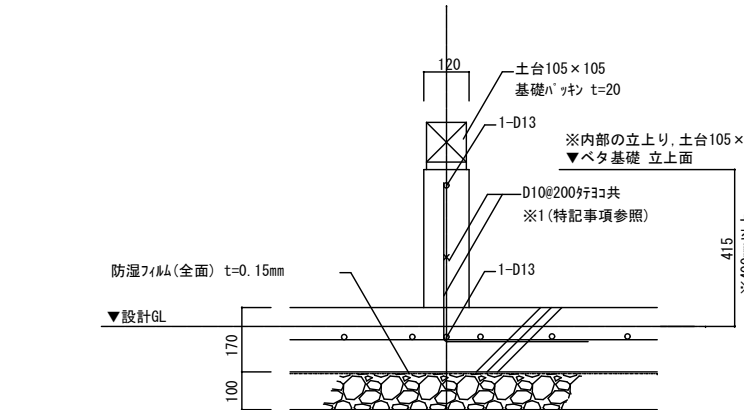
基礎貫通スリーブ (KSS45L50X230H) 給水用参考詳細図

- 特記事項 ※1 開口部等主筋の端部についてはD13とする
特記事項 ※2 打継目地底からかぶり厚さ60mm以上確保する
特記事項 ※3 基礎貫通スリーブからかぶり厚さ40mm以上確保する
特記事項 ※4 基礎貫通スリーブかぶり厚さ確保のため一部碎石除去
特記事項 ※5 鉄筋切断時には適切な補強をする

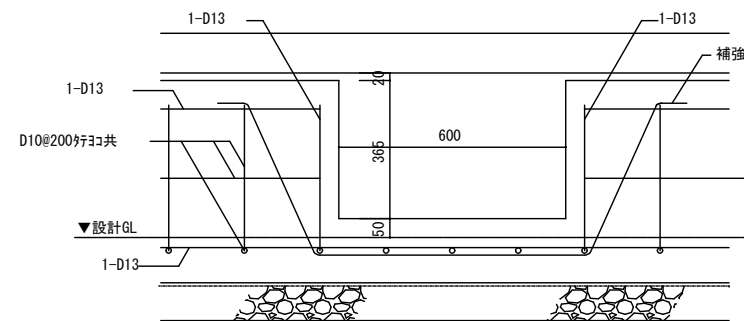


《布基礎 詳細図 S=1/20》

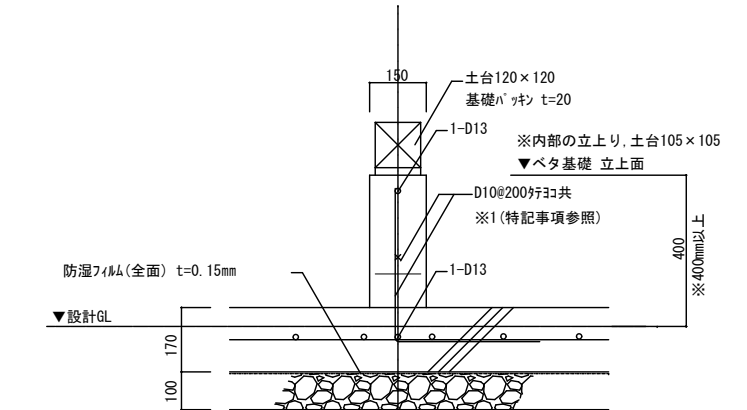
- 特記事項 ※1 開口部等主筋の端部についてはD13とする
特記事項 ※2 両側端部には主筋D13とする



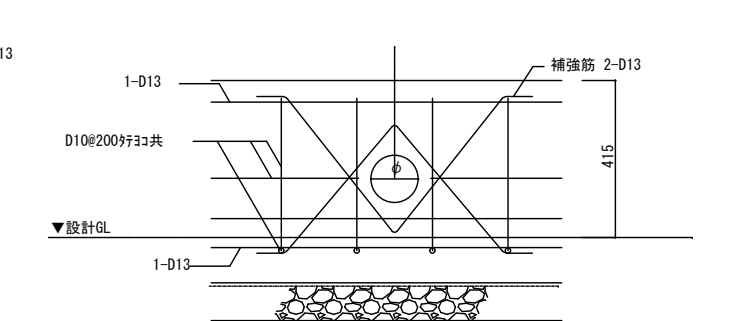
《W120 基礎詳細図 (内部) S=1/20》



《人通口補強筋 詳細図 S=1/20》



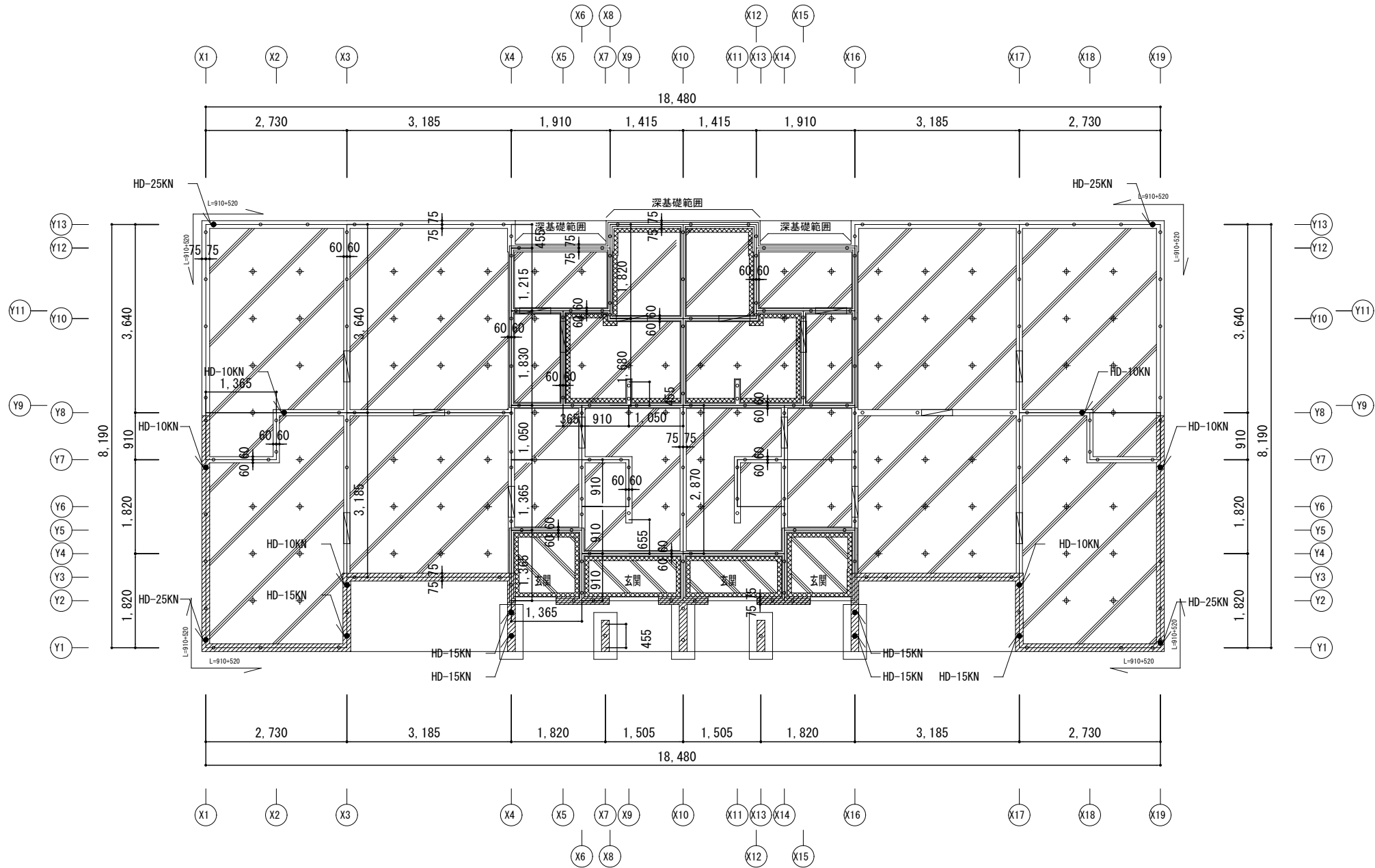
《W150 基礎詳細図 (内部) S=1/20》



《スリーブ管補強筋 詳細図 S=1/20》

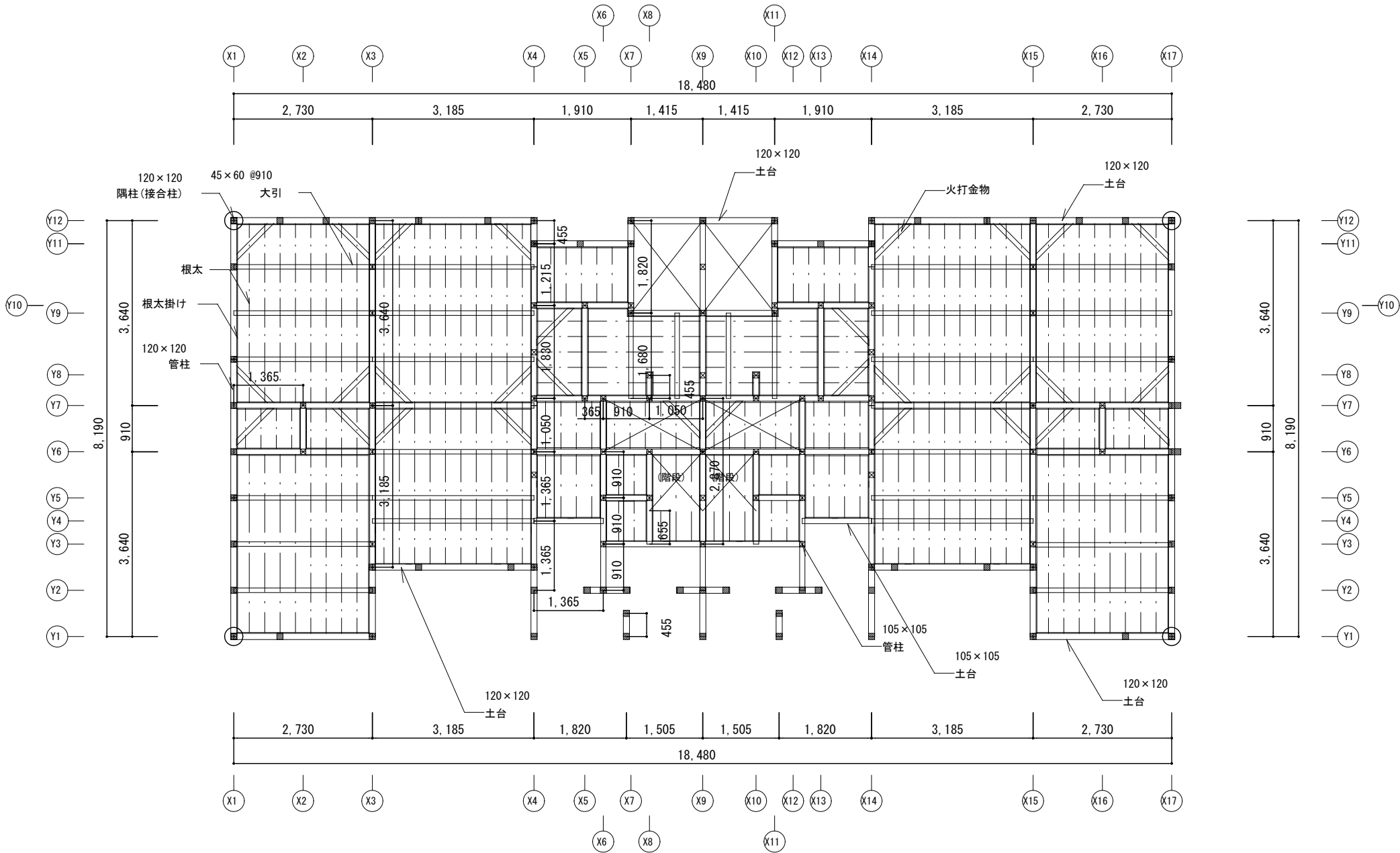
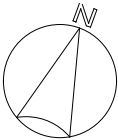
- ※100φ以上を補強対象とする
補強筋の定着は30dとする

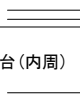
工事名	設計	令和8年1月18日	 株式会社 西岡設計	〒373-0034 群馬県太田市藤岡久町749-8 TEL0276-31-2771 FAX0276-31-5101 1級建築士事務所 登録819号 <管理建築士> 1級建築士 登録第249853号 後藤 英一	代表となる設計者 一級建築士 登録第106850号 氏名: 塚越 正 その他の設計者 一級建築士 登録第312124号 氏名: 松浪 康行	図面名	縮尺	No.
令和8年度大島市営住宅2期(2工区) 建築工事	訂正	令和8年3月30日				基礎詳細図	A3 1/20	S-08
		令和 年 月 日						



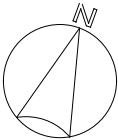
■基礎伏図凡例記載事項	
	ベタ基礎 t=170 配筋 (桁, ｺｺ) D13@200 (ｼﾝｸﾞﾙ) 短辺方向を下部・長辺方向を上部配筋とする 特記なきスラブ天端レベルは GL+50とする
	ｺﾝｸﾘｰﾄ立上 (外周部) H=400, W=150 ｺﾝｸﾘｰﾄ立上 (内部) H=415, W=120 配筋は基礎詳細図による
	ｺﾝｸﾘｰﾄ立上 H=530, W=150 配筋は基礎詳細図による
	立上り部共通特記 ・隅部補強筋 (1-D13、定着長さ:40d)
	土間ｺﾝｸﾘｰﾄ t=120 (ｼﾝｸﾞﾙ) 配筋:ワイヤーメッシュ 6φ-100×100 ※1 (玄関):砕石により嵩上げし土間ｺﾝｸﾘｰﾄとする (べた基礎の上に土間ｺﾝｸﾘｰﾄ)
	布基礎 t=150, W=500 ｺﾝｸﾘｰﾄ立上 H=400, W=150 配筋 D13, D10, D10@250
	ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ M12, L=450 @2.7m以下 ※ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄの位置は柱芯から150mm内外とする ※ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄの埋め込み長さは250mm以上とする
	ﾎﾙﾀﾞﾝ金物 (HD-必要耐力KN) ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ M16, L=800 埋め込み360mm以上とする
	鋼製束位置
	土間天端レベルを示す
	立上り天端レベルを示す
	土間床等の外周部 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 3種bA
	玄関区画及び浴室・洗面区画、基礎立上りH=530 の部分は気密パッキンとする
・床下換気は基礎通気パッキン(ねこ土台)とする (基礎ﾊﾞｯｷﾝ t=20 (全周敷込タイプ)) ・基礎ﾊﾞｯｷﾝは1.0m当たり有効換気面積75cm ² 以上とする	
 → 人通口の補強範囲 ベース補強範囲 ベースの配筋の間にD13を追加 立上りの下端には主筋を通す	

基礎伏図 S=1/100



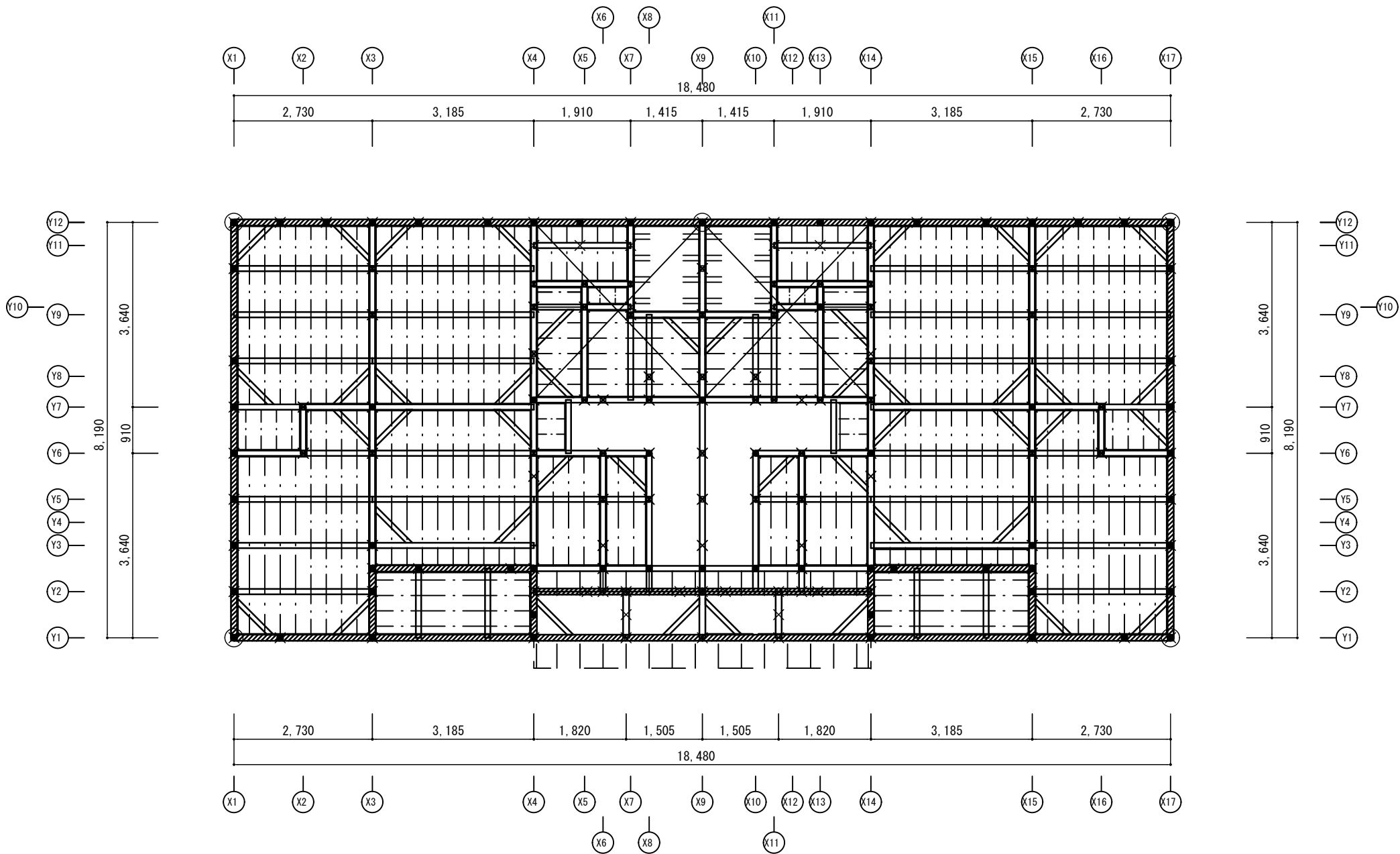
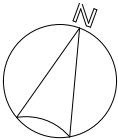
■ 1 階床伏図部材表			
用 途		材 寸	材 種
土台 (外周) ※1		120 × 120	米ツガ 防腐・防蟻処理土台 ※2
土台 (内周)		105 × 105	
大引		90 × 90	ペイマツ
根太		45 × 60	ペイマツ
根太掛		45 × 90	ペイマツ
火打土台		鋼製火打金物 (Zマーク金物同等品)	
束		鋼製束	
接合柱 		120 × 120	集成材 (赤松)
隅柱 		120 × 120	集成材 (赤松)
管柱 		120 × 120	集成材 (赤松)
管柱 		105 × 105	集成材 (赤松)
間柱 (外壁) ※6 (内壁)		45 × 120 30 × 105	ペイマツ
筋交い		45 × 105	ペイマツ
※1: 土台の防腐・防蟻処理はJAS規格の保存処理 性能区分K3相当以上とする ※2: 地面より1m以内にある柱・筋かい・土台 には防腐・防蟻措置を施すこと ※3: 構造耐力上主要な部分である部材軸組、継手、 仕口等の構造方法については、告示第1460号 に適合するよう施工する ※4: 床下換気は基礎パッキン(ねこ土台)とする 基礎パッキン t=20 (全周敷込タイプ) 基礎パッキンは1.0m当たり有効換気面積75cm² 以上とする ※5: 一部内壁に設置あり			

1 階床伏図 S=1/100



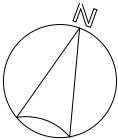
備考

※一点鎖線表記は2重床部分を示す
 ※2重床部分に示す梁は上端合せ
 (梁天端 2FL-320程度)とする



■ 2階梁伏部材表 【特記なき部材寸】		
用 途	材 寸	材 種
床梁 (外周) (内部)	120×150	ペイマツ
	105×150	
根太	45×105@303 @303	ペイマツ
火打金物		
接合柱 	120×120	集成材(赤松)
出隅柱 	120×120	集成材(赤松)
管柱 	120×120	集成材(赤松)
管柱 	105×105	集成材(赤松)
間柱 (外壁) ※ (内壁)	45×105 30×105	ペイマツ
筋交い	45×105	ペイマツ
天井吊り木	120×50	ペイマツ
母屋	90×90	ペイマツ
垂木	45×60@455	ペイマツ
束	90×90 105×105	ペイマツ
備考 ※特記なき梁で内周部は105×150とする ※施工の際、ﾌﾟﾚｶｯﾄ図にて再確認とする ※浴室梁105×150, 4ヶ所 UBの支持脚位置に合わせて 配置すること ※一部内壁に設置あり		
■ 凡例		
	梁 ※柱が120角のため 梁の幅は120mmとする(図示)	
	接合柱	
	隅柱	
	1階管柱	
	2階管柱	
	小屋束	
	垂木	
	母屋	
	棟木	
	根太	
備考		

2階床伏図 S=1/100



■小屋梁伏部材表

(特記なき部材寸)

用 途	材 寸	材 種
梁 (外周)	120×150	ベイマツ
梁 (内部)	105×150	
棟木	105×105	ベイマツ
母屋	90×90	ベイマツ
垂木	45×60 @455	ベイマツ
束	90×90 105×105	ベイマツ
火打金物		

備考

※梁で外周部は全て、120×150とする

※施工の際、ﾌﾟﾚｶｯﾄ図にて再確認とする

※小屋梁と小屋束の面合せにならない部分

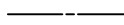
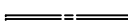
についてはかすがい金物ではなくリコーナ

金物を使用とする

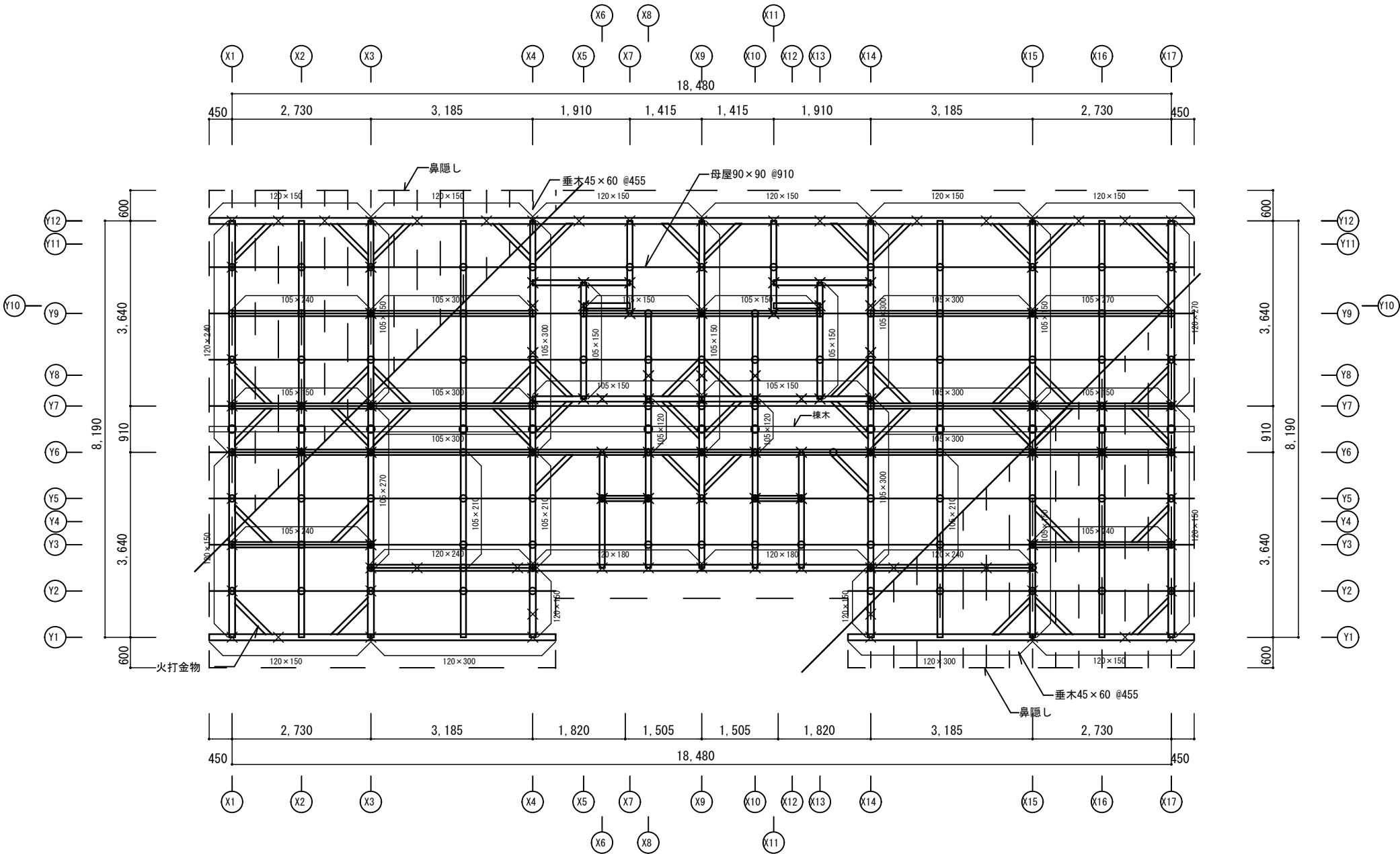
(ｶｶｶ社製:告示1460号第二号 (は)

に該当品と同等)

■凡例

	梁 ※柱が120角のため 梁の幅は120mmとする (図示)
	隅柱
	管柱
	小屋束 90×90
	小屋束 105×105
	垂木
	母屋
	棟木・谷木

備考



小屋伏図 S=1/100

